

## ■ 「八色しいたけ」のあゆみ

当地域は魚沼産コシヒカリや八色スイカに代表される農業地帯です。しかしながら全国有数の豪雪地帯であるために、冬期間の農業の仕事がなく各地に出稼ぎに行くのが一般的でした。

その状況を打破し、通年で農業を営みたいという思いから、昭和60年に9名の生産者が「八色しいたけ生産組合」を設立し、原木しいたけの栽培に取り組み始めたことが産地の始まりでした。



その後、次第に原木の入手が困難になったこともあり、平成4年頃から現在の菌床しいたけの試験栽培に着手。平成6年にはしいたけハウスを建設し、菌床栽培を本格的に開始しました。しかし、当時は菌床栽培の先例やノウハウも少なく、なかなか理想とするしいたけを栽培することができず試行錯誤を繰り返す毎日でした。

しかしながら、平成10年には現在の「上面栽培」と出会い、更にしいたけハウス建設による販売の強化、平成14年には菌床センター（培地製造施設）、パックセンター（選別と出荷施設）を建設し、本格的な産地としての一歩を踏み出しました。

現在では、栽培農家も17名に増え、大きくて肉厚のしいたけを安定的に生産する産地として高く評価されるまでになりました。

また、平成23年には生産組織である「八色しいたけ生産組合」の法人化を行い、「八色しいたけ事業協同組合」を設立して、年間1,200トンの出荷となりました。平成25年には培養センター（菌床一次培養施設）の稼働、第2パックセンターの増設を行い、将来的には年間1,800トンの出荷産地を目指していきます。

今後も高品質の「八色しいたけ」を消費者の皆様にお届けできるよう生産者が一体となって努力していきたいと考えております。